

## 目次

- 1 企業理念／企業行動憲章
- 2 新たな成長に向けて

### 日本ユニシスグループの価値創造

- 4 日本ユニシスからBIPROGYへ
- 6 CEOメッセージ
- 12 価値創造プロセス
- 14 価値創造プロセス解説
- 18 財務ハイライト
- 20 非財務ハイライト

### 未来を経営する

- 22 「Vision2030」と「経営方針(2021-2023)」
  - 22 過去の中期経営計画振り返り
  - 24 Vision2030
  - 28 経営方針(2021-2023)
- 36 CFOメッセージ

### 確かな未来を形づくる基盤の強化

- 39 CEO・社外取締役 座談会
- 42 人財戦略
- 46 環境
- 49 サプライチェーン・マネジメント
- 50 コーポレート・ガバナンス
- 58 リスクマネジメント

### データセクション

- 64 業績概況
- 66 財務11年間サマリー
- 68 連結財務諸表
- 71 ESG情報
- 74 用語集
- 75 責任表明
- 76 会社情報

## 統合報告書2021のコンセプト

日本ユニシスグループは、日本初の商用コンピューター提供以来60年以上にわたり社会や産業を支えるシステム構築やICTサービスの提供により日本国内の情報サービス産業の形成・発展に貢献してきました。また、SDGs(持続可能な開発目標)に代表されるように持続可能な社会の実現に向けて、早くから業種・業態の垣根を越えさまざまな企業をつなぐビジネスエコシステムの中核となり、お客様・パートナー企業と共に、社会を豊かにする新しい価値の創造と社会課題の解決に取り組んできました。これらの取り組みを加速させ、社会的価値創出企業に変革していくための「Vision2030」および「経営方針(2021-2023)」を発表しました。

「日本ユニシスグループ 統合報告書2021」では、新たに策定したPurposeのもと、「Vision2030」および「経営方針(2021-2023)」への取り組みを通じて、社会的価値の創出と持続的な成長を目指す当社グループの価値創造プロセスについてご説明します。

#### 編集方針

本報告書は、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様へ、日本ユニシスグループの中長期的な企業価値向上に向けた取り組みおよび社会的価値と経済的価値の両立を実現するプロセスについて、理解を深めていただくことを目的として発行しています。「日本ユニシスグループ 統合報告書2021」では、「価値協創ガイダンス」(経済産業省)、「国際統合報告フレームワーク」(国際統合報告評議会(IIRC)\*)などのガイダンスを参考にし、当社グループの価値創造プロセスにおいて特に重要性の高いものについて、財務情報と非財務情報を交えてご紹介しています。より詳細な情報については、当社Webサイトをご参照ください。

\* IIRCとサステナビリティ会計基準審議会(SASB)は2021年6月に合併し、Value Reporting Foundation(VRF)が設立されました。

P.76 財務・非財務情報開示のツール

#### 報告対象範囲

原則的に、当社およびグループ会社(連結子会社および非連結子会社)とし、範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。

#### 報告対象期間

原則的に、2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)とし、必要に応じて過年度の活動や2021年度以降の状況についても掲載しています。

なお当社は2021年度より国際財務報告基準(IFRS)を適用しており、2020年度以前における財務情報につきましては日本基準に基づいています。

#### 参考にしたガイドライン

- 国際統合報告評議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク」
- GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- ISO26000/JIS Z 26000
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」

#### 発行

2021年9月



#### 将来情報に関する注意事項

本報告書に記載されている当社およびグループ会社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績などに関する見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断および仮定に基づいています。実際の業績などはリスクや不確定要素の変動および経済情勢などの変化により、見通しと異なる可能性があり、当社グループとしてその確実性を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。本報告書は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本報告書利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## 企業理念

わたしたちが社会に果たすべきこと  
すべての人たちとともに、  
人と環境にやさしい社会づくりに貢献します

わたしたちが目指すこと  
社会の期待と要請に対する感性を磨き、  
そのためにICTが貢献できることを考え抜く集団になります

わたしたちが大切にすること

1. 高品質・高技術の追求  
社会に役立つ最新の知識を有するとともに、技量を高めます
2. 個人の尊重とチームワークの重視  
相手の良い点を見いだし、それを伸ばすことを奨励し合い、互いの強みを活かします
3. 社会・お客様・株主・社員にとり魅力ある会社  
ステークホルダーの声に真摯に耳を傾け、企業価値向上に努めます

## 企業行動憲章

わたしたちは、こどもたちの未来を守るために、  
社会および環境に対する責任を果たします

1. 人と環境の共生を第一に考え、行動します
2. 常に社会的責任の原則に照らし、行動します
3. 社会的責任の中核主題、課題に真摯に取り組みます

※ 社会的責任の原則

社会的責任に関する国際ガイドンス「ISO26000」の7つの原則（説明責任、透明性、倫理的な行動、ステークホルダーの利害の尊重、法の支配の尊重、国際行動規範の尊重、人権の尊重）を指します。

※ 社会的責任の中核主題、課題

社会的責任に関する国際ガイドンス「ISO26000」の7つの中核主題（組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展）、および各中核主題に関する課題を指します。

## 商号変更のお知らせ

すべての人たちがもつ光を掛け合わせ希望ある未来に導く社会的価値創出企業へ

**UNISYS**

から

**BIPROGY**

へ

日本ユニシス株式会社

BIPROGY株式会社

日本ユニシス株式会社は、新たなPurposeに掲げた社会的価値創出企業となる決意、覚悟とともに、商号およびコーポレートブランドを変更することを発表しました。2022年4月1日付で商号を「BIPROGY\*株式会社」へと変更します。新たな商号・コーポレートブランドのもと、先見性と洞察力でテクノロジーの持つ可能性を引き出し、持続可能な社会の創出を目指し、社会的価値を創出する企業に変革します。

※光が屈折・反射した時に見える7色（Blue、Indigo、Purple、Red、Orange、Green、Yellow）の頭文字を使った造語。

- ・さまざまなビジネスパートナーや多種多様な人々がもつ光彩を掛け合わせ、混とんとした社会の中で新たな道を照らし出すこと
- ・光彩が状況に応じて変化するように、社会や環境変化に応じて提供する価値を変えていくことの2つの意味を込めている。

新商号

**BIPROGY株式会社**

（ビプロジーカブシキガイシャ）

英語表記：BIPROGY Inc.

新コーポレートブランド

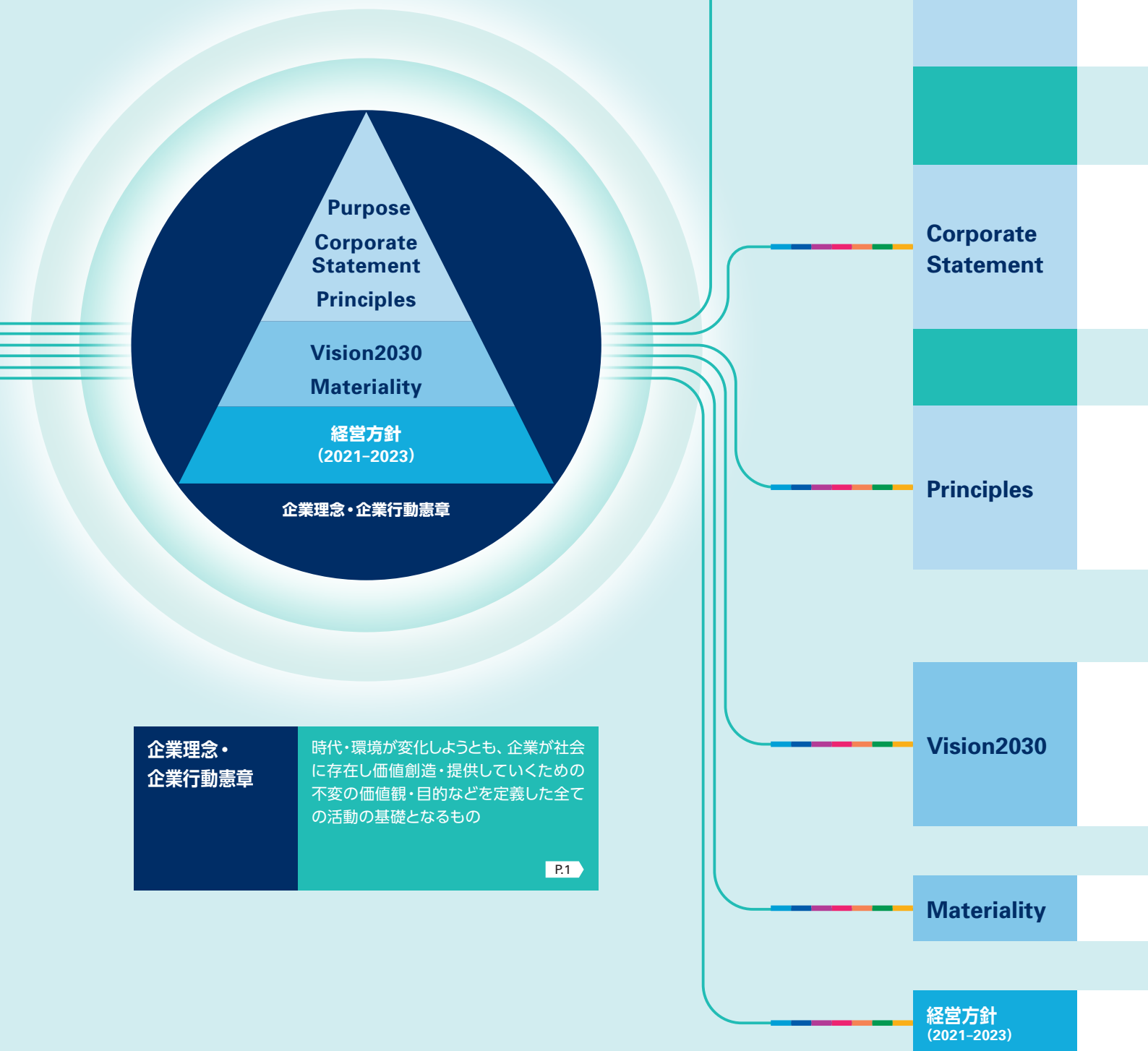
**BIPROGY**

変更予定日

2022年4月1日

# 新たな成長に向けて

日本ユニシスグループは、これまで取り組んできた新しい社会的価値創出の取り組みを糧に、社会の一員として、さらなる貢献を行う決意を新たに、長期にわたり果たしていく社会的役割として Purpose (企業の存在意義) を明らかにするとともに、Principles (原則・主義) および「Vision2030」を制定し、これらと一貫性を持った経営方針を策定することで当社グループが同じベクトルを持ち、持続的成長を実現させていきたいと考えています。



これまで…

**存在意義**

顧客・パートナーと共に  
社会を豊かにする価値を提供し、  
社会課題を解決する企業

企業の存在意義や果たすべき社会的役割などを表したものであり、事業推進にあたり、さまざまなステークホルダーの共感を呼び込み巻き込んでいくためのもの、日本ユニシスグループらしさや経営の決意を含んだもの

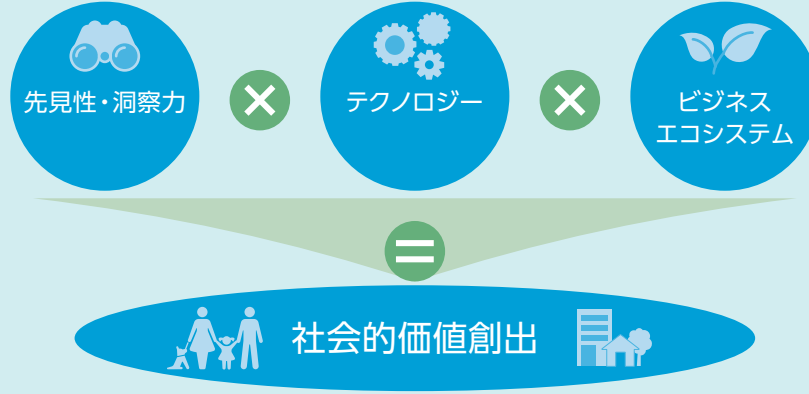
企業の活動の在り方や目指す姿を社内外に一貫性を持って浸透させていくための端的なスローガン

企業理念・企業行動憲章はもとより、PurposeやVisionを実現していくための原理・原則、主義・信条を定義したもの

2030年に向け、日本ユニシスグループが果たしていく役割や存在意義を表したもので、長期活動を推進していくための私たちの想いや決意を込めたもの

P.24

## 先見性と洞察力でテクノロジーの持つ可能性を引き出し、持続可能な社会を創出します



## Foresight in sight

‘Foresight’「先見性」は、業界の変化やお客様のニーズ、これからの社会課題を先んじて想像し把握するという意味、そして‘in sight’は「見える・捉えることができる」という意味と、‘insight’「洞察力」の意味を合わせたダブルミーニングとなっています。

### 原理・原則

人権の尊重と社会的包摂  
多様性の受容と獲得  
自己研鑽と主体性の発揮  
透明性高い企業活動と健全な企業体質  
誠実な履行

### 主義・信条

善良な社会の一員としての真摯、且つ熱意ある取り組み  
次世代へウェルビーイングをつなげる取り組み  
ビジネスエコシステム形成による価値の創出  
高品質・高技術・卓越性の追求  
社会的価値の創出と持続的成長の実現

## わたしたちは、デジタルコモンズを誰もが幸せに暮らせる社会づくりを推進するしくみに育てていきます

日本ユニシスグループが考えるデジタルコモンズとは

社会に既に存在する私有財（企業・団体・個人のもつ財）や余剰財（稼働率の低い財）を、デジタルの力で追加コストの少ない共有財として広く利活用可能とすることによって、社会課題解決における社会的価値と経済的価値の両立を可能とするコミュニティ

※デジタルコモンズは、日本ユニシス（株）の登録商標です。

日本ユニシスグループが取り組む重要課題やそれらの指標を明らかにしたもの

P.26

「Vision2030」を実現させるため、2021年度から2023年度の3カ年で実現していく目標、推進するための主要戦略・推進体制等を明らかにしたもの

P.28